

こうみょう じ かん ぼう つ なみ ひ  
光明寺寛保津波の碑

■指定年月日／平成13年3月30日  
■所在地／松前町字建石7  
■所有者／浄土宗建石山光明寺(無縁堂)



光明寺 寛保津波の碑

松前は日本海に面する狭隘な地に集落が発達しているため、海難・風水害の発生頻度が非常に高かった。このうち最大の被害をもたらしたのが、寛保元年(1741)に発生した大津波である。

『福山秘府』によれば、同年7月16日、日本海上に浮ぶ大島が突如大噴火をし、同19日早朝に大津波が襲来したのである。この津波は松前弁天島から熊石村までの諸村に大被害をもたらした。溺死する者1,467名、家屋破壊791戸、破船大小1,521艘に上り、アイヌの家、船の被害、死者は数知れずと記され、この津波は遠く青森、佐渡の地にも被害をもたらした。

同8月18日、光善寺の発願により次のような石柱卒塔婆そとばを建て施餓鬼せがきを修行、翌年光善寺が無縁堂を建立して追善供養した。

碑は花崗岩製で、高さ364cm(台座2段含む)、正面61cm、側面46cm。正面には『南無阿弥陀佛 為 洪波溺死 諸靈菩提』背面には『寛保元年辛酉七月十九日』左側面には『助縁御城下両浜中惣町中』右側面には『願主御城下自他請寺院中』の銘が刻まれている。

せん りゅう いん かん ぼう つ なみ ひ  
泉龍院寛保津波の碑

■指定年月日／平成13年3月30日  
■所在地／松前町字建石7  
■所有者／曹洞宗耕福山泉龍院

津波による被害は、大島の対岸にある、松前町字江良地区の被害が最も大きく、『津軽藩日記』によれば「ゑら町」では、「三百七拾人程外旅人八拾人程」の死人がでたと記されている。

この津波で生き残った人々が泉龍院に集まり、実宗が中心となって、この供養碑を建立し犠牲者の菩提を弔った。

碑は、花崗岩で高さ112cm(地藏部分50.5cm)、幅30.5cm、奥行き28.5cm、台座は高さ22cm、幅43cm、奥行き47cm、正面に「為 寛保元年 辛酉 溺死諸靈菩提 七月十九日」の文字が、左側面には建立者が刻まれている。

また、江差町法華寺、江差町正覚院及び松前町光明寺の供養塔並びに熊石町の地藏座像とともに大津波の惨状を今に伝える重要な歴史的資料として貴重である。



泉龍院 寛保津波の碑(右側)